



8月27日に、学校評議員 藤谷 秀明さん 舞谷 裕美さん 鈴木 久善さん、育友会会長 中川 美里さんにご参加いただき、第1回学校関係者評価委員会を開催しました。7月に行った、生徒アンケート・保護者アンケート・職員アンケートをもとに、1学期<中間>の学校の取組を振り返り、評価をいただきました。ご意見を参考に今後改善に努めてまいります。

取組Ⅰ 自律型学習者の育成—確かな学力—

重点目標 (評価内容)	評価のためのアンケート項目		アンケート 結果	今後に向けて	学校関係者 評価
					評価 B
①基礎基本の定着	生徒	授業がわかりやすい	88.0% B	2学期は昨年度と同様に計算コンテストとスプリングコンテストを実施する予定である。1学期同様、学習プロセスを重視し、練習や小テストを計画的に行うことで、達成感や充実感を高めていく。また、英検も全員受験を目指し、目標達成に向けて計画的に演習に取り組んでいく。	教室環境の面や学習マナーについてなど、小学校が同じ校舎にいたメリット・デメリットについては理解できた。家庭学習については、生徒アンケートと保護者アンケートとの差が気になる。分析をしっかり行い、具体的な対策をお願いしたい。
		各種コンテストや検定に積極的に取り組んでいる	69.2% D		
	保護者	「授業がわかりやすい」と言っている	82.3% B		
	教職員	基礎的基本的知識や技能の定着を図っている	100.0% A		
②家庭学習の充実	生徒	家庭で学習に取り組み、課題は期日を守って提出している	80.2% B	生徒に対しては、学活や教育相談の時間を使って学校と家庭での学習の両立を指導するとともに、教職員は宿題の内容や質を見直し、家庭学習の充実につなげていく。	
	保護者	家庭で学習に取り組んでいる	56.5% D		
	教職員	家庭学習に関する指導を行っている	85.7% B		
③学習の工夫 (活用力の育成→ 教師の授業力向上)	生徒	友達と教え合ったり話し合ったりすることができる	93.4% A	生徒が学んだ知識を実際の生活でどのように使えるかを理解しやすくするために、授業では実際の生活に関連する例を取り扱い、学習内容が身近に感じられるよう工夫していく。また、自分の学びを振り返り、どのように課題解決に役立てたかを評価したり、教師や友達からのフィードバックを通じて改善点を見つけたりし、次回に活かせるようにしていく。	
		振り返りを行い、学んだことを整理したり、新たな気づきなどがあつたりする	86.3% B		
	教職員	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導している	92.3% A		
		授業で身につけたことを課題解決に活用したり、他教科や日常生活のさまざまな場面で生かしたりできるように指導している ICTを活用した授業づくりをしている	69.2% D 92.3% A		
④学習規律の確立	生徒	学習マナーを守っている	93.4% A	2学期の初めに学校全体で学習の意義を再確認し、学習マナーの定着を図っていく。また、生徒が主体的に学びに取り組む環境を作り出し、生徒自身が学びに対して責任を持ち、積極的に参加することができるようにしていく。	
	教職員	学習マナーを守るよう指導している	78.6% C		
	保護者	お子さんを含め生徒たちは落ち着いて学習に臨んでいる	89.2% B		

取組Ⅱ 健康や体力の向上

重点目標 (評価内容)	評価のためのアンケート項目		アンケート 結果	今後に向けて	学校関係者 評価
					評価 B
①自己管理能力の育成	生徒	規則正しい生活を送っている	87.9% B	今後も健康意識を維持・向上させるために、委員会活動や保健だより等を通じて継続的な教育と実践の場を提供し、良い習慣を支え続けていきたい。また、昨年と同様に給食試食会を計画し、保護者に対しても食に関心を持ってもらう活動を行っていく。 ゲームやスマホ等のルールやきまりを守ることの重要性を生徒に理解させるため、「スマホ・ネット安全教室・人権教室」を計画している。家庭でもルールの再確認ができるようはたらきかけていきたい。	TV、ゲーム、スマホの使い方については、親としては自分も使っているのだから、言いづらい部分もある。ネット社会の危険性についても考えさせることができたらよい。2学期に行われる「スマホ・ネット安全教室・人権教室」にも期待している。
		自分の健康を守る取組(手洗い・マスク・歯磨きなど)をきちんと行っている	98.9% A		
		部活動に参加し頑張っている	94.5% A		
		好き嫌いせず給食を食べている	89.0% B		
		自問清掃を行っている	90.1% A		
	保護者	メディア(TV やゲームやスマホなど)使用で、家庭でのルールやきまりを守っている	78.0% C		
		学校は、健康・安全教育について具体的な指導を行っている	98.8% A		
		メディア(TV やゲームやスマホなど)使用で、家庭でのルールやきまりを守っている	43.5% D		
教職員	健康・安全教育への取組や啓発を行っている	100.0% A			

評価の方法

質問項目 4段階（4できている 3だいたいできている 2あまりできていない 1できていない）のうち、〈4+3：肯定的回答〉の割合で評価 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満

取組Ⅲ 心豊かな人間性や社会性を育む

重点目標 (評価内容)	評価のためのアンケート項目		アンケート 結果	今後に向けて	学校関係者 評価
					評価 B*
①規範意識・責任感の育成	生徒	誰にでも進んで大きな声で気持ちのよいあいさつをしている	70.3% C	生徒会が主体となり、朝の挨拶運動を定期的に行うなど、全校で挨拶の大切さを共有する活動を行っていく。また、教師間でも挨拶を大切にし、職員室や校内での挨拶の習慣を徹底することで、生徒が自然に挨拶を身につける環境を作っていく。	我が子は体育祭の準備が楽しいと言っている。楽しいことばかりではなく、悩むこともあるだろうが、それを乗り越えていくことは良い経験であると思う。校舎内に入ると生徒から挨拶をしてくれた。横断歩道で頭を下げる生徒もあり、挨拶はしっかりとできていると感じている。
		人が困っているときは進んで助けたり協力したりしている	90.1% A		
		自分の係の仕事に責任を持って取り組んでいる	98.9% A		
	保護者	お子さんを含め生徒たちは、しっかりとした挨拶ができている	88.2% B		
		学校は、決まりを守ることなど基本的な生活習慣が身につくよう指導している	94.0% A		
	教職員	生徒はしっかりとした挨拶ができている	85.7% B		
②いじめ・不登校の未然防止	生徒	友達の悪口を言ったり、嫌な思いをさせたりしていない	91.2% A	今後も、生徒と教職員間のコミュニケーションが良好なものとなるよう、生徒が悩みを話しやすい環境を整えていく。そのために、デイリーライフなどを活用し、生徒の良さを認め、励ますことで、コミュニケーションを深めていきたい。また、定期的な個別面談を実施し、問題を早期に発見し、解決につなげていく。	
		学校に行くことが楽しい	84.6% B		
	保護者	学校は、生徒の悩みや問題に適切に対応・指導している	91.5% A		
		学校に行くことを楽しみにしている	83.5% B		
	教職員	生徒の悩みや問題に適切に対応・指導している	85.7% B		
③ふるさと学習・体験学習の充実	生徒	さまざまな活動を通して、地域から学ぶことができている	86.8% B	ふるさと「穴水町の復興」につながる活動となるよう、1年生は広報誌、2年生はCM、3年生は中学生会議をゴールと設定して取り組みを進めていく。	
	保護者	学校は、ふるさとや地域を大切にする学習に取り組んでいる	96.4% A		
	教職員	地域資源や地域の方々を生かした学習に取り組んでいる	92.9% A		
④キャリア教育の充実	生徒	自分の進路について考えている	72.5% C	今後、進路コーナー、キャリア(職業)コーナーを充実させていく。また、道徳の授業等を通じて、自分の「生き方」について考える機会を増やしていきたい。	
	保護者	学校では、進路(生き方)に関する指導や相談が行われている	87.0% B		
	教職員	進路(生き方)に関する指導や相談を行っている	85.7% B		
⑤生徒会による自主的活動の充実	生徒	生徒会活動や学校行事(体育祭・文化祭など)に意欲的に取り組んでいる	95.6% A	体育祭、文化祭、生徒集会がすべての生徒にとって自己肯定感を高めることができる活動となるよう、教職員間で共通理解を図り、計画的に準備を進めていく。	

取組Ⅳ 開かれた学校・信頼される学校づくりの推進

重点目標 (評価内容)	評価のためのアンケート項目		アンケート 結果	今後に向けて	学校関係者 評価
					評価 B
①家庭との連携	保護者	学校は、教育方針や教育活動のようすをわかりやすく伝えている	96.5% A	保護者や地域の方々との信頼関係が強化されるよう、今後も情報の発信を充実させていく。	震災後という特殊な事情もあったと思うが、生徒だけではなく、先生方も心と体を大事にしてほしい。マチコミのタイムライン等、今後も学校からの情報発信を楽しみにしている。
	教職員	教育方針や教育活動のようすをわかりやすく伝えている	85.7% B		
②働き方改革	教職員	日頃からワークライフバランスに努めている	64.3% D	ワークライフバランスの重要性を再確認し、必要に応じて業務の分担やサポート体制の見直しを行っていく。	
		業務の効率化を心がけている	85.7% B		